

平成19年度豊かなむらづくり全国表彰事業

近畿農政局長賞

すぎやま
杉山地区（京都府舞鶴市）



市民農園とその周辺

（概要）

（１）むらづくりの動機・背景

中山間地域等直接支払制度により、農地の荒廃を抑止し、耕作放棄地の復旧を行ったが、担い手不足による復旧農地の再荒廃を懸念し、市街地住民と一緒に復旧した農地を守っていくことを決断した。新たなネットワークの形成へと発展させるために、集落住民と杉山地区を愛する人でNPO法人「名水の里杉山」を平成17年に設立した。

（２）むらづくりの内容

市民農園の開設・運営

復旧した農地が再び荒廃することを防止するため、市民農園を開設し、都市住民とともに農地を守っている。開設から4年が経過し、農園利用者は30組となりその輪を広げている。市民農園は、単なる作物を栽培するだけの場でなく、集落住民と農園利用者との交流の場となり、交流の中からそれぞれの視点でいろいろなアイデアが出され、むらづくりのきっかけとなっている。

ふるさと保全ワークショップの実施

地域住民だけでなく市民農園利用者とも協働してワークショップに取り組み、地域の将来のイメージをとりまとめ、地域構想図を作成した。

都市住民との交流促進

市民農園は「市民農園憩いの家」「トイレ」「用具庫」「貸し農機具」を備えており、周辺には「農園ビオトープ」「ハーブ園」「パン焼き石窯」も整備され、集

落住民と農園利用者の交流と憩いの場となっている。 交流の輪は、農地を守るだけにとどまらず、毎年「市民農園収穫祭」「グリーンツーリズム」「農園音楽祭」「石窯体験教室」など様々な催しを開催する力となっている。

NPO法人「名水の里杉山」

集落住民以外の人も取り込んでNPO法人を設立し、市民農園の運営や収益事業への取組、イベントの実施など杉山地区の中核となる活動を実施している。

名水「大杉の清水」を利用した活動

NPO法人による収益事業として、「大杉の清水」を酒米づくりと仕込み水に使った地酒づくりの取組みを行っている。また、かつて「大杉の清水」が育んだ「わさび」は味と香りの良さが評判であったが、収穫量が激減しており、このわさび農園の復活に取り組む活動も行っている。



市民農園



農園音楽祭



パン焼き体験



整備構想図（一部）